



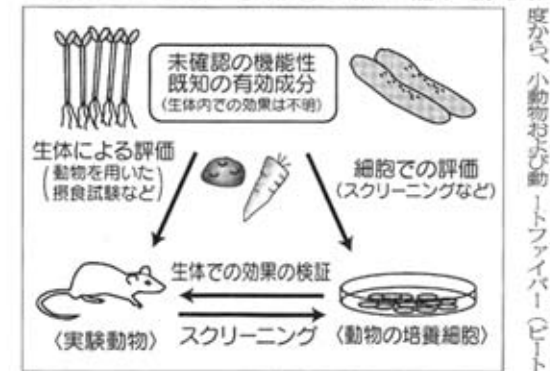
橋本 直人氏

(北海道農業研究センター芽室研究拠点
機能性利用研究北海道サブチーム)



北海道農業研究センター芽室研究拠点では昨年「葱」といった農作物は、多くの抗酸化物質が含まれていることが知られていますが、生体内での効果は、消化や吸収性などの関係で実際に摂取試験を行わなければ分からない部分もあります。これら機能性を有することが予測される農作物に対し、客観的なエビデンスを提示するために研究を行っています。

十勝は日本有数の畑作地帯です。近年、一部の農作物に含まれる健康機能成分が報告されていますが、畑作物には機能性評価が行われていないものも多くあります。畑作物やその加工副産物に健康機能が隠れている場合は、消費拡大や有効利用に寄与することができません。



一方で、消費者の健康に対する関心が高まるにつれ、食品の健康機能性に関する科学的なエビデンス(根拠)の提示も求められ、重要な役割を担うと考えられます。

重要な科学的根拠の提示

小動物や培養細胞で機能性評価

からの砂糖抽出後の残さなどの農産加工副産物について機能性を明らかにすることです。

例えば、ナガイモは健康によいといわれていますが、文献を検索しても科学的な研究に基づく報告はほとんどありません。

また、ソバフラウトには多くの抗酸化物質が含まれていますが、生体内での効果は、消化や吸収性などの関係で実際に摂取試験を行わなければ分からない部分もあります。

これら機能性を有することが予測される農作物に対し、客観的なエビデンスを提示するために研究を行っています。

当研究センターでの健康機能性評価は始まったばかりですが、今後はさまざまな機能性を明らかにすることで農産物の発展に貢献していきたいと考えています。